

好調廃液処理ですが色々あります



液体ではなく固まっている



骨材砂利のようなものが出てくる



廃液処理お陰様で5年間で140%UPで、ご利用頂いています。

蓋を緩めると反応した液が噴き出る

クローズドラム、廃液入れすぎ

通常の廃液ではなく、処理困難な廃液も増えてきましたが、協力頂いている

反応で膨れ

処分場とも緊密に連絡を取り、お客様にご満足いただける様に2025年も更に廃液処理取り組んでまいります。

【ご注意事項】

フタ下10cmまで、主剤と硬化剤は混ぜない(反応し固まる為) 何卒ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

リバーイースト



(株) 勇塗装様



「リバーイースト」

神奈川県小田原市にある老人保健施設

「リバーイースト」1,500㎡

3月20日春分の日:3月22日土曜日の2日間で
UN施工を行いました。

久しぶりのUN施工ご用命いただいた(株) 勇塗装様
今回初めてUNマシンを見た方が1名いらっしゃり
「1度経験したかったんです、今回、早くて楽な意味が
良くわかりました」
と、言っていただけました。

さあ、春本番がやってきます！、UNマシンの屋上施工が気持ちのいい季節になってきました。

春風を感じながら、ウレタン圧送UNマシンレンタルシステム是非とも、ご利用の程お願い申し上げます。

第71回プレミアムインセンティブショー



特販チームのタオル協力メーカー



様々なブース



昼食は池袋大勝軒のラーメン

4月16日～18日、第71回プレミアムインセンティブショーが池袋のサンシャインシティで開催。

特販チームのタオル関係で協力頂いているメーカー等も出展されました。

販促ノベルティーグッズのマーケットは何千億と言われ、そこに携わる、すごい数のメーカーさんが存在します。

比較的販売単価は何千円単位のものが多く、数をこなして儲けるビジネスモデルとなっています。

その為、他社と少しでも違いを出すために脳に汗をかき、新商品を市場に提案していきます。

以前、展示会で爪切りとボールペンを合体させた提案品をいただき、こんなもの誰が使うの？と
笑いましたが、この爪切りが優れモノで今でも重宝に使用させてもらっています。

提案は無限です！



爪切り付ボールペン

ある製品開発



メーカーの製品開発部に異動になった前担当者より
胴ベルト兼用ランヤード巻取式の伸縮部が塗料等の付着により、**巻き取れないのを防ぐためのカバー**を考えているとのアイデアありタタキ台イメージサンプルを見せて頂きました
「そもそも巻き取れない頻度は多いのですか？」と聞くと明確な返答はありません・・・但し思いついて、言葉でなくそこで形を作る行動は個人的には応援したくなります。

現場桜咲きました



産廃のデポでもある埼玉物流入口近くにある「現場桜」が今年も咲き、映像が届きました。10年以上も前に30代埼玉物流所員が急死しご両親と共に植樹を行い、その後2名の社員が病気等で帰らぬ人になり、現場桜のプレート裏に3名の名前が記されています。今年も埼玉物流の入口で、産廃ドライバーを含む現場所員を見守るように(旭山桜)控えめに凜と咲きました。

空ドラムは各センターにも在庫



東京物流第二センター奥に空ドラム常に数缶在庫



メンテ使用済材料入りは×マーク廃液処理へ



埼玉物流空ドラム回収保管中



メンテナンス時に廃液発生した場合廃液処理へ

産廃チームでは通常、所沢に借りている保管場所に空ドラムを100缶以上在庫しています。
産廃ドライバーは埼玉物流がデポで、埼玉にも空ドラムも数缶在庫しています。
また、効率化を考慮し、東京物流第二倉庫にも空ドラムを常時数缶在庫しています。UNを終えた現場から空ドラム回収時、第二倉庫に空ドラムを降ろすこともあったり、途中ルートで第二倉庫から空ドラムを引き上げ客先設置に向かう場合もあります。UNオペレーターとしてメンテナンスで廃液が発生した場合は、数ドラム貯めてから産廃チームに廃液処理を依頼しています。UNと産廃そして各物流センターが協力しながら効率良い流れで活動しています。

UNマシン.COMサイトが立ちあがりまして
ブログ銀の汗にUNの活動状況一部掲載しています

www.un-machine.com
銀の汗バックナンバーも掲載

yahoo検索ワード第1位(ウレタン・省力化など)
UNマシン にて検索

【sweat of silver】

最新のAI技術開発者と画家の対談を観ました。最近ではAIで絵が描けるとの事で、ユーチューブ登録が100万人を超える画家に技術開発者がAIが描いた絵の添削を依頼した。見た目の絵は上手く描けている猫と花の絵だった。猫単体も花単体も上手く描けていた。画家も一つ一つのパーツは上手く描けているが全体で見た時に①猫のトーンがきつ過ぎる②花が単で重なりや色の変化をつけて奥行を表した方がいいなど、プロらしい指摘に、なるほどその通りと納得しました。画家曰く、まだデザインの勉強が足りない気がしますと、そう、見たままではなく、何を主役に見せたいのかその為にはどう奥行を見せるか、目線の誘導を考えるか、その為に補色をどう有効に使うかなど何年も描いて体得した感性のようなものがAIの絵には、今の所感じる事が出来ないようでしたが、この感性の部分もディープラーニングを繰り返し、美的センスをAIが習得するのも時間の問題ではないかと思いました。将棋の世界も今はAIの方が強くなっています。それでも人間が指す将棋は無くなったわけでもなく何時間も考え指した手が悪手だったり、ミスをするのが人間という中で人間対人間の戦いにファンは離れずに応援する人が増えています。きっと絵も文学も将来AIが素晴らしい作品を作るのは間違いないと思います。「いい仕事してますね～」と、鑑定士泣かせの世の中が来るでしょう。でもその頃にはAI鑑定ソフトも開発され、キツネAIとたぬきAIが高度な戦いをしているでしょう。こんな変化と進歩が速く激しい世界だからこそ、100年経っても読み継がれている古典といわれる本や、クラシック音楽をじっくり、行間を味わったり旋律に身を任せたりする時間を持つことが大切ではないかと考える今日この頃でございます。あたり前田のクラッカー、そんなバナナ！